



新外来棟の建築は順調に進行中です。鉄筋5階建の耐震設計で、平成27年春には完成します。面積的には現在の外来棟より多少手狭となりますが、導線を合理化することにより効率的な診療ができると考えています。中央診療棟との間にはアトリウムを

設け、患者さんと職員がくつろげる空間を用意する予定です。皆様には騒音等でご迷惑をおかけしていますが、ご協力よろしくお願いいたします。

(2013年 冬) 徳島大学病院長 安井夏生



建設中の新外来棟



新外来棟 1階アメニティスペースイメージ

卒後臨床研修センター活動

徳島大学病院研修プログラム説明会を —初!! 初期研修、専門医研修合同— (新)大塚講堂で開催しました

6月8日(土)に徳島大学病院基幹型卒後臨床研修プログラム説明会を行いました。今年初めて、初期研修・専門医研修合同の説明会とし、学生のみならず初期研修医にも広く参加者を募りました。形式としては例年と同様に2部構成とし、1部は徳島大学病院卒後臨床研修プログラムの概要についての説明と研修医による体験談プレゼンテーションおよびパネルディスカッションを行いました。2部では徳島大学病院・協力病院による合同説明会をブース形式で実施しました。

1部・2部とも新設されたばかりの大塚講堂で行い、例年よりさらに多くブースのご出展をいただきました。多くの診療科、協力病院のスタッフや研修医から直接話が聞けるとあって、マッチングを控えた徳島大学の6年生のみならず、4年生や5年生、他大学の学生、そのほかにも県内で研修中の研修医や、徳島大学出身で他県で研修中の研修医などたくさんの方にご参加いただくことができ、盛況のうちに終わることができました。



▶第1部 パネルディスカッション
▼第2部 ブース形式での説明会



県外広報

県外における医学部学生を対象とした大規模な合同説明会には、研修医と卒後臨床研修センターの専任スタッフで毎年、徳島大学病院をアピールするために参加しています。今年度も岡山での中国四国地区医師臨床研修病院合同説明会、大阪と東京で行われたレジナビフェアで、各診療科の阿波踊り連のうちわを手に研修医・スタッフ丸となってPRしてきました。これらの説明会を機に病院見学に来られる県外からの学生も増加しています。



▶大阪レジナビでの様子

本年度より“当直スキルアップセミナー”を (対象: 学生、研修医、指導医、コメディカル) 日亜メディカルホールで始めました

今年度から新しく実施した試みとして“当直スキルアップセミナー”があります。これは従来の研修医講義をバージョンアップし、対象も当院の研修医だけでなく学生や各診療科の指導医、医師以外のメディカルスタッフの方達および院外の方々にも拡大し多くの方に開かれた会としました。テーマも当直の時に役立つようなトピックを厳選し、関連のある診療科の先生方に講師をお願いして講義をしていただくこととしました。

すでに第1回、第2回が行われており、第1回(5月2日)は主要内科をテーマに、第2回(6月10日)は脳卒中をテーマとしました。いずれも研修医のみならず幅広い立場の方にたくさんご参加いただき盛況のうちに終わることができました。

12月4日には日亜メディカルホールにて第3回が行われ、小児科・産婦人科・内分泌代謝内科の先生に講義をお願いしました。

来年以降も年数回のペースで実施を計画している勉強会ですので、多くの方に知っていただいご参加いただければと考えています。



第1回の様子(日亜メディカルホールにて)

第1回 当直スキルアップセミナー

「簡単エコー」

消化器内科 郷司 敬洋 先生

「市中肺炎の診断と治療」

呼吸器・膠原病内科 後東 久嗣 先生

「危険な心電図の見極め方と対処法」

循環器内科 添木 武 先生

第2回 当直スキルアップセミナー

「脳卒中の初期対応」

脳神経外科 里見 淳一郎 先生

「脳卒中の画像所見」

放射線科 阿部 考志 先生

「脳卒中のリハビリテーション:早期リハの重要性」

リハビリテーション部 佐藤 紀 先生

第3回 当直スキルアップセミナー

「入院中の血糖マネジメントについて」

内分泌・代謝内科 倉橋 清衛 先生

「妊婦・授乳婦の診察・処方における注意点」

産婦人科 加地 剛 先生

「当直で役立つ小児のみかた」

小児科 渡辺 浩良 先生

研修医のためのキャリアデザインセミナー

8月30日にキャリアデザインセミナーを西病棟11階日亜メディカルホールで行いました。これは卒後臨床研修センターがキャリア形成支援センターと共催で厚仁会のバックアップの下、初期研修から専門医研修への橋渡しのサポートとなるべく毎年夏の終わりに実施している試みです。それぞれ個性豊かな経歴をお持ちの3名の若手の先生を講師としてお招きし、ご自身のキャリアデザインについてお話していただきました。

今年も研修医だけでなく、各診療科の先生方、医学部の学生など多数のご参加をいただきました。研修医や学生たちにとって大変貴重なお話ばかりで、自分たちの進路を考えるにあたって大変参考になったことと思います。その後、引き続いて懇親会としてこちらも夏の恒例行事となったビアパーティーを行い、そこでも学生や研修医たちが講師の先生方に直接質問をしてお話をうかがうような姿も多く見られました。

ご講演くださった3名の先生方にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

キャリアデザインセミナーの講師一覧

宇高 憲吾 先生 血液内科
『卒後4年目 まだまだヒヨッコです』

郷司 敬洋 先生 消化器内科
『キャリアデザイン これまでとこれから』

網野 祐美子 先生 救急集中治療部
『私のキャリアデザイン』



懇親会の様子(Soraにて)

研修医紹介

現在、徳島大学病院で研修中の研修医

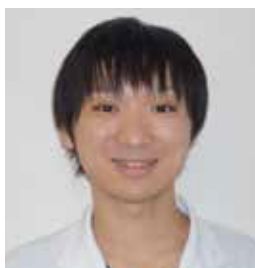
前回のニュースレター発行後に戻ってきた2年次研修医です。

1年次研修医

森 輝実
新井 悠太
生田 奈央
乾 友浩
梅原 佳那子
玉置 俊輔
津保 友香
長瀬 紗季
中林 えみ
森本 佳奈
山本 聖子
猪子 未希

2年次研修医

西田 望 山崎 裕行
濱 紳悟 乾 宏彰
牟田口 淳 小濱 里江
今田 久美子
植村 勇太
小濱 祐樹
幸田 舞子
佐埜 弘樹
高橋 彩加
谷口 若葉
松田 華子
湊 亮詠



小林 直登
(こばやし なおと)
残りの研修期間、悔いが残らないようにしっかり頑張ります。



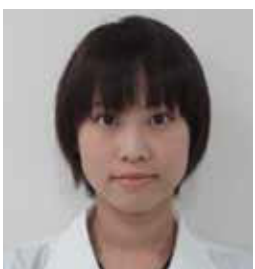
大田 健人
(おおた けんと)
8月から研修させていただいています。残りの研修期間も短くなってきましたが、1日1日を大切に頑張ります。



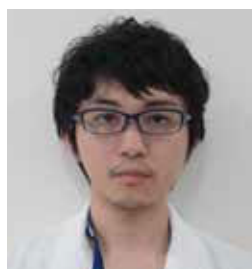
大田 有理
(おおた ゆり)
9ヶ月ぶりに大学病院に帰ってきました。残り5ヶ月、ご指導・ご鞭撻の程よろしくお祈りいたします。



曾我部 公子
(そがべ きみこ)
残りの研修も1日1日大切に頑張っていきたいと思っておりますので、ご指導よろしくお祈り申し上げます。



藤田 美香
(ふじた みか)
患者さんの心に寄り添い、少しでもお力になれるよう努力いたします。よろしくお祈りいたします。



松本 和久
(まつもと かずひさ)
久しぶりの大学病院勤務となりますので至らない点は多々あるかと思いますが、宜しくお願いいたします。



宮内 雅弘
(みやうち まさひろ)
日々の診療を大切に一生懸命頑張ります。ご指導よろしくお祈り致します。



八木 ひかる
(やぎ ひかる)
7月から大学に戻ってきました。一生懸命頑張ります。

徳島大学病院 研修医奮闘記

徳島大学病院Bon Voyageプログラム
2年次研修医 山崎 裕行

この前、始まったばかりと思った研修医生活が、あと半年で終了しようとしています。

研修が始まる前の春休みが終わる頃、果たしてこれから私は医師としてやっていけるのかという不安でいっぱいだった自分を思い出します。いざ研修が始まると、優しい先生方や同期の研修医のおかげで、不安な気持ちから新しい環境で頑張ろうという気持ちに変わりました。処方や点滴の仕方など、毎日が新しい経験の連続で、やること学ぶことがたくさんあり、すぐに時間が過ぎて行きました。

研修医生活が始まってまもない時期に、上級医から教えられた言葉が、今でも頭の中に残っています。「一度、手技を覚えてもらえる機会があったら、次は自分一人で準備からできるようになるつもりで学びなさい。チャンスをくれた時にできなければ、二度とさせてもらえないという気持ちで。」という内容でした。正直、一度で全てを覚えることは難しいです。しかし、そういう気持ちでいなければ、二度三度と教えてもらっても結局は何かは抜けてしまいます。いざ手技を

させてもらえる機会があっても、何をしようか分からなくて、私自身恥かしい思いをしたこともあります。今も研修科が変わるごとに、新たなことを学ばせていただいているのですが、常に一度で覚えるという気持ちを忘れずに、日々研修に励んでいます。あと半年と短い間ですが、これからも宜しくお願い致します。

振り返れば、楽しかった思い出、怒られた思い出など、走馬灯のように蘇ってきます。同期が多かったため、研修医室は賑やかでした。仕事終わりに同期と飲むお酒は、学生時代よりさらに美味しかったです。

一年目の研修医のみなさん、自分のやる気次第で研修生活はいろんな方向に変わっていきます。常に向上心を持って多くのことを学べるよう頑張ってください。これから研修医になるみなさん、徳島大学病院での研修はいかがでしょうか。一人でも多くの方が、研修病院として徳島大学病院で選んでくれることを願っています。



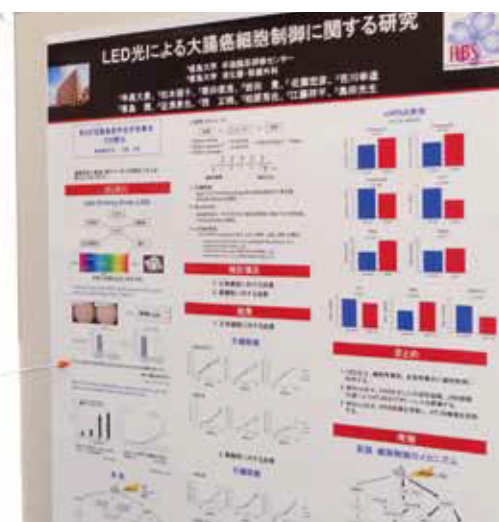
徳島医学会学術集会

平成25年8月4日(日)に徳島大学大塚講堂で第247回徳島医学会学術集会が行われました。例年、研修医による発表も行われており、今年もたくさんの研修医がポスター発表を行いました。どの先生も立派なポスターを作成し、練習の成果を十分に発揮した堂々とした発表ができました。この会では優秀な発表を行った研修医を対象に若手奨励賞が授与されており、徳島大学病院からは寺奥大貴先生が第10回若手奨励賞を受賞しました。

県内・四国内のみならず、国内の各種総会、国際学会で発表する研修医もあり、こういった発表をすることが研修医たちにとって大きな経験となります。貴重な機会を与えていただき、指導して下さる各診療科の先生方に感謝しています。この場を借りてお礼申し上げます。

若手奨励賞受賞

寺奥 大貴 先生
(2年次 研修診療科:
消化器・移植外科)
「LED光照射による大腸癌細胞制御に関する検討」



医員募集

平成26年度の医員募集情報

徳島大学病院では、下記の要領で、平成26年度の医員(3年目以降の専門医研修者を含む)を募集します。

平成26年度の医員募集の概要

条件	医師免許取得後2年以上臨床研修を行った者または、平成26年3月までに卒業臨床研修を修了(予定)している者。
募集人数	170名(ただし、専門医研修希望者はすべて受け入れます)。
処遇	国立大学法人徳島大学有期雇用職員就業規則による。
募集のための書類	希望する当該診療科または徳島大学総務部人事課蔵本人事係にお問い合わせください。
募集の締め切り	平成26年1月中旬
問い合わせ先	採用希望される場合は、随時、各診療科または総務部人事課蔵本人事係までお問い合わせください。人事課蔵本人事係 Tel.088-633-7018 Fax.088-633-7474

編集後記

今年の夏はまさに「酷暑」という言葉がぴったりの厳しい暑さでした。そんな暑い夏が終わり、2年次の研修医たちにとってははいよいよ研修の修了、そして将来自分たちの進む道を最終決定する時期となりました。2年間の研修で学んだ全てを糧に新しい場所で活躍してほしいと願っています。卒業臨床研修や専門医研修に関する事、このニュースレターに関する事等、何かありましたらご連絡ください。(W)

■ニュースレターに関する御意見・ご要望など、お気軽にお寄せください。
bsotsugo@tokushima-u.ac.jp



徳島大学病院卒業臨床研修センター
Tel: 088-633-9359 または 9976
Fax: 088-633-9358
E-mail: bsotsugo@tokushima-u.ac.jp
URL: http://www.tokudai-sotsugo.jp

徳島大学病院 診療科案内

お問い合わせは
E-mail: bsotsugo@tokushima-u.ac.jp

循環器内科

(科長 佐田 政隆)

循環器内科はプライマリケアから非侵襲的画像検査、カテーテル治療などの専門・高度医療にわたる幅広い領域をカバーしています。当科では救急集中治療部と合同で循環器救急24時間体制を構築しており、徳島県内の各種医療機関との病診連携も積極的に行っています。臨床研修については、四国はもとより東京、大阪、神戸、沖縄、静岡などの県外医療機関と積極的に連携して、各自の将来設計に柔軟に対応できるプログラムを提供しています。



連絡先 佐田 政隆 masataka.sata@tokushima-u.ac.jp
伊勢 孝之 isetaka@tokushima-u.ac.jp
(卒後研修主任) tel.088-633-7852 fax.088-633-7894
<http://square.umin.ac.jp/TOKUSHIM/>

呼吸器・膠原病内科

(科長 西岡 安彦)

肺癌、肺炎、気管支喘息、リウマチ疾患を中心に、指導医・専門医のもとチーム医療を推進しています。臨床腫瘍学、感染症学、アレルギー学、免疫学等の幅広い分野の臨床経験が積めるのも当科の特徴です。生物製剤によるリウマチ診療、間質性肺炎・睡眠時無呼吸症候群の診療でも県内で中心的な役割を果たしています。国内外への留学による研修等を通じ常に総合力アップを意識し、全国レベル国際レベルの医療人育成を目指しています。



連絡先 埴淵 昌毅 mhoney@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7127 fax.088-633-2134
<http://sannai.umin.jp/>

消化器内科

(科長 高山 哲治)

当科では、消化器疾患の診療を中心に、内科を幅広く診療できる医師の育成を目指しています。消化器診療においては、早期胃癌・食道癌・大腸癌に対する粘膜下剥離術(ESD)を多数行い、肝臓に対してはラジオ波焼灼術や高度なインターベンション治療を多数行っています。また、種々の進行消化器癌に対して最新の分子標的治療薬を含めた質の高い化学療法を行うとともに優れた全身管理を行っています。当科における研修システムでは指導医が充実しており、指導医と研修医が一体となって最善の医療を提供しております。



連絡先 宮本 弘志 miyamoto.hiroshi@tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7124 fax.088-633-9235
http://www.tokushima-hosp.jp/info/circulatory.html?rank_code=unit&belong_code=2

腎臓内科

(科長 土井 俊夫)

腎臓内科では、県下一円から難治性の腎疾患患者を受け入れています。腎臓内科の診療活動は、ネフローゼ症候群・腎炎などの腎疾患の診断治療と慢性腎不全の透析導入、透析室管理の3つの柱からなっています。糖尿病、高血圧、膠原病など全身性疾患からの腎障害も多く、広く内科全般に渡る症例を経験するとともに、術前後を含めた透析管理を研修していただきます。当科での取得可能専門医:総合内科専門医・腎臓専門医・透析専門医。



連絡先 土井 俊夫 doitosho@tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7184 fax.088-633-9245
<http://www.tokudai-kidney.jp/>

内分泌・代謝内科

(科長 松本 俊夫)

内分泌腺が産生するホルモンは全身臓器の機能調節に関わり、生体のホメオスタシス維持に必須です。また、代謝異常症には糖尿病、脂質代謝異常症、痛風、骨粗鬆症など頻度の高い生活習慣病が多く、その理解は不可欠です。内分泌・代謝疾患では神経、呼吸器、循環器、血液領域などにまたがる多彩な全身症状を呈します。当科では、内分泌代謝疾患患者の診療を通じて、臨床医として必要とされる幅広い病態の理解と的確な診断能力、そして適切な治療方針の立案能力を身につけた医師を育成しています。



連絡先 松本 俊夫 toshio.matsumoto@tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7120 fax.088-633-7121
<http://square.umin.ac.jp/TUBioReg/index.html>

血液内科

(科長 安倍 正博)

血液内科では、造血障害、造血器腫瘍や免疫不全を中心とした疾患に対し、造血幹細胞移植などの新しい診断技術や治療法を取り入れ幅広く診療を展開しております。このような治療の遂行においては、コメディカルとのチームによる全人的かつ専門的診療が重要です。当科ではコメディカルと一体となり患者の全身管理ができるバランスのとれた医師の育成を目指しています。



連絡先 安倍 正博 masabe@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7120 fax.088-633-7121
<http://square.umin.ac.jp/TUBioReg/index.html>

神経内科

(科長 梶 龍児)

かつては「わからない・なおらない」と揶揄された時代もあったらしいのですが、時代はダイナミックに変わっております。頭の先から指の先までの神経の症状、神経難病、脳卒中(SCU)から日常遭遇する一般的な症状(頭痛・物忘れ・手足のしびれ感)に至るまでを「治る神経内科」を実践しております。ストレートな専門医試験合格にも定評があります。国内・海外への留学実績も豊富です。



連絡先 和泉 唯信 yizumi@clin.med.tokushima-u.ac.jp
野寺 裕之 hnodera@tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7207 fax.088-633-7208
<http://www.neuro-tokushima.com>

心臓血管外科

(科長 北川 哲也)

心臓血管外科医は、「自分の知と腕」をもって、病む患者さんの生きようとする力を支えてあげることのできる、やりがいのある仕事です。暖かい心と勇気を持ち、夢と情熱のある方は、当科で専門医研修をしませんか。君たちの想いに応えます。現代の社会環境でこそチャンスです。
"Chance favors only the prepared mind!!"次代を担うのはあなたです。



連絡先 北市 隆 kitaichi@tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7581 fax.088-633-7408
<http://www.toku-cvs.umin.jp/>

食道・乳腺甲状腺外科

(科長 丹黒 章)

確かな技術を備えた外科医を育てることをモットーとしています。「確かな技術」とは、手術のテクニックのみならず、正確な診断、適切な手術適応の決定や、周術期の全身管理、初期治療から緩和治療まで、あらゆる治療に精通することを意味しています。全ては患者さんのためであり、それらの技術習得に必要な環境が私たちの教室には揃っています。「目の前の患者さんを自分の技術で治したい」。そんな熱く、優しいハートを持った若いドクターよ、集まれ!



連絡先 滝沢 宏光 htakizawa@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7143 fax.088-633-7144
<http://www.tksbizan.com/>

呼吸器外科

(科長 先山 正二)

当科は、肺癌、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍など腫瘍性疾患を中心として、ロート胸、臍胸、気胸など呼吸器外科疾患全般に関して診療を行っています。肺癌に対する胸腔鏡下手術、早期肺門部肺癌に対する光線力学方法や気道狭窄に対するステント、レーザー治療などを行っています。H24年7月よりda Vinciによるロボット手術を開始し、先端技術の導入にも積極的に取り組んでいます。外科におけるサブスペシャリティとしての呼吸器外科専門医取得のための充実した修練プログラムを用意しています。外科・呼吸器外科に興味ある若人よ、来たれ!



連絡先 中川 靖士 y-nakagawa@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7143 fax.088-633-7144
<http://www.tksbizan.com/>

泌尿器科

(科長 金山 博臣)

泌尿器科は、関連病院のほとんどが日本泌尿器科学会で認定された基幹病院であり、症例も多く充実した研修が受けられます。さらに透析認定施設も多く、透析専門医の習得も可能です。少人数精鋭のため、早い段階から開腹手術だけでなく腹腔鏡手術の執刀を行っており、腹腔鏡技術認定医・腎移植認定医等の習得も可能です。希望に応じて大学院進学、国内・海外留学もできます。泌尿器科に興味を持つ熱意ある先生の入局を大歓迎します。



連絡先 金山 博臣 kanayama.hiroomi@tokushima-u.ac.jp
高橋 正幸 takahashi.masayuki@tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7159 fax.088-633-7160
<https://tokushima-u-uology.jp/>

消化器・移植外科

(科長 島田 光生)

「拡大切除・機能喪失から低侵襲・再生外科へ」をスローガンに肝胆膵外科領域では高難度手術、集学的治療、生体肝移植を行っており、年間の肝切除症例は100例、膵切除は30例を超え、肝胆膵外科高度技能修練施設Aに徳島で唯一認定(高度技能専門医を3名擁しており、日本でもトップクラス)されています。消化管外科では胃癌手術の5割、大腸癌手術の8割で鏡視下手術を行っており、内視鏡外科技術認定医5名が執刀を行っています。ロボット手術(ダ・ヴィンチ)もすでに7例施行しました。鏡視下アンモラルボを含む研修プログラムも用意しています。



連絡先 池本 哲也 tikemoto@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7139 fax.088-631-9698
<http://www.tokugeka.com/>

小児外科・小児内視鏡外科

(科長 石橋 広樹)

①小児外科の広範な疾患に対する治療:四国の小児外科の中心的施設として、胸部、腹部をはじめ小児悪性腫瘍および、泌尿器科領域まで広範な疾患をカバーしています。
②小児外科領域での鏡視下手術:小児単径ヘルニアに対するLPEC法その他、ヒルシュスプリング病、鎖肛、GERDなどなどに対しても積極的に鏡視下手術を施行して取り、中国・四国地方では、唯一の日本内視鏡外科学会技術認定(小児外科)を取得しています。



連絡先 石橋 広樹 hiroki@tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-9276 fax.088-631-9698
<http://www.tokugeka.com/>

眼科

(科長 三田村 佳典)

人間は外界からの情報の80%を視覚から得ており、高齢化社会を迎え眼科学の重要性は増すばかりです。当教室では網膜硝子体、緑内障、角膜炎、斜視弱視、ぶどう膜炎、眼瞼眼窩といった広範囲の専門分野を研修することができます。また、独自の小切開硝子体手術器具を考案し質の高い網膜硝子体手術を行っており、日本で唯一AlphaCor(人工角膜)の手術も行っております。ぜひ、我々とともに活気あふれる教室を作ってゆきましょう。



連絡先 江川 麻理子 egawa.m@tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7163 fax.088-631-4848
<http://www.tokushima-ganka.jp>

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

(科長 武田 憲昭)

現代の耳鼻咽喉科・頭頸部外科は、頭頸部の感覚運動学、機能再建外科、頭頸部腫瘍外科を担当する科です。徳島大学耳鼻咽喉科では、耳鼻咽喉科の全ての担当範囲において国際トップレベルの医療と研究を行い、明るく楽しく積極的に、個性を尊重して個性を伸ばし、世界一の耳鼻咽喉科をめざしています。徳大耳鼻科で頭頸部のスペシャリストをめざしませんか？



連絡先 北村 嘉章 ykitamura@clin.med.tokushima-u.ac.jp
(総務医長) tel.088-633-7169 fax.088-633-7170
http://www.toku-oto.umin.jp

形成外科・美容外科

(科長 中西 秀樹)

当科での研修は2つの行程があり、専門医を取得するための専門医研修(4~6年間)と、その後の専門分野の強化研修になります。1年目は、大学病院で形成外科の基礎知識と技術の習得のための研修を行い、2年目以降は主に関連病院で研修になります。四国各県の国公立病院で特色のある臨床研修を受けることが可能です。また、大学院での研究活動(形成外科教室内あるいは希望があれば基礎医学教室への出向も可能)、さらに専門医取得後になりますが、海外・国内留学のチャンスも十分にあります。



連絡先 清家 卓也 seike.takuya@tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7296 fax.088-633-7297
http://www.tokushima-hosp.jp/info/circulatory.html?rank_code=unit&belong_code=18

精神科神経科/心身症科

(科長 大森 哲郎)

今、精神科医が求められています。精神科の敷居が低くなり受診者が増え続ける現状に加え、教育や行政からのニーズも激増しております。精神科は非常に守備範囲の広い診療科です。自分のライフスタイルや興味に合わせて方向性を選択することができます。指導体制の充実には自信があります。精神科医になるなら徳大精神科での研修を！



連絡先 住谷 さつき satsuki@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7130 fax.088-633-7131
http://tokushima-psychiatry.jp/

放射線診断科

(科長 原田 雅史)

放射線診断科では画像診断(CT、MRI、核医学、超音波、消化管透視)、IVR(血管内治療、CTガイド下生検など)を行っています。現代の医療において画像診断は必要不可欠です。全国トップクラスの検査装置、画像診断システムに恵まれた環境のもと、最先端の医療に携わってみませんか。研究においても各々の分野で多くの臨床研究を行っています。また、家庭を持った女性医師でも働きやすい環境作りを努めており、そのような女性医師の入局も歓迎です。



連絡先 原田 雅史 masafumi@tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7173 fax.088-633-7174
http://www.tokushima-hosp.jp/info/circulatory.html?rank_code=unit&belong_code=25

救急集中治療部

(部長 西村 匡司)

重症患者は様々な臓器に問題を抱えており、治療には呼吸や循環、感染症、栄養、腎・血液浄化などに関する幅広い知識・技術と、病態を総合的に評価する力が必要です。救急集中治療部では、呼吸不全、循環不全、重症感染症や小児開心術後など、様々な患者の診療を通してこれらの知識や技術、判断力を身につけることができます。全身管理・重症患者管理に興味がある人は一緒に働きましょう。他科志望の人の研修も歓迎します。



連絡先 小野寺 睦雄 m-onodera@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-9347 fax.088-633-9339
http://sv01.inter-bus.jp/~toku_icu/

整形外科

(科長 西良 浩一)

整形外科は骨・筋肉・関節・神経・靭帯など運動器を幅広く扱う診療科です。ひとたび運動器が障害されれば、人間らしい生命活動は満足に行うことができません。すなわち、運動器は人間が人間たる所以を発揮するのに、最も重要な器官ともいえます。整形外科は老若男女、全身(上肢・下肢・体幹)をカバーするため守備範囲が広く、一人前になるのに少々時間はかかりますが、誰でも努力すれば一流になりえるところが魅力です。徳島から世界にはばたく整形外科・骨大工になりませんか。



連絡先 西良 浩一 seikei2@tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7240 fax.088-633-0178

脳神経外科

(科長 永廣 信治)

脳神経外科は、common diseaseである脳血管障害、頭部外傷、脊椎脊髄疾患に加え、脳腫瘍、機能的疾患、小児神経疾患など様々な疾患を対象とします。徳島大学病院では脳卒中センターを有しており、将来進出科にかかわらずすべての初期研修医が脳卒中のいろはを修得できるシステムを提供しています。後期研修では、脳神経外科疾患全般に対応できる能力を身につけたうえで、自身の興味や特性に応じた専門技術獲得にむけバックアップいたします。



連絡先 里見 淳一郎 junichirosatomi@gmail.com
tel.088-633-7149 fax.088-632-9464
http://www.tokushima-nougeka.com/

小児科

(科長 香美 祥二)

「私達自身の未来である子ども達の健康を守ること、一般小児科臨床の基本を習得した上で更に小児科サブスペシャリティ(専門分野)での診療能力を養うこと」を目標に、小児科は医局員一同、切磋琢磨しています。香美祥二教授のもと、伝統を守りつつも新しいことに挑戦する姿勢で、日々診療に研究に努力しています。子ども達のために21世紀の小児医療を背負う若手医師の入局を、心からお待ちしています!!

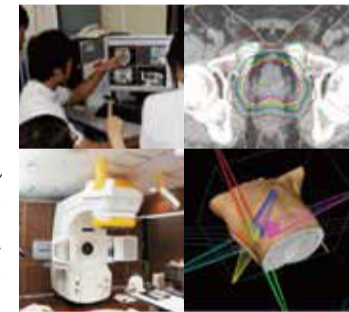


連絡先 渡辺 浩良 hwatana@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7135 fax.088-631-8697
http://www.tokudai-pediatrics.net/

放射線治療科

(科長 生島 仁史)

徳島大学病院放射線治療科では高精度外部放射線治療対応のリニアック3台(Novalis TX 1台を含む)、三次元治療計画装置と密封小線源治療システムを有しています。これらの設備に年間約800人の新規患者を受け入れており、中四国ではNo. 1の新規患者数を誇る国内でも有数の放射線治療施設です。当科では粒子線治療を除くすべての放射線治療技術の研修が可能です。緩和医療を含む広範ながん医療を他の診療科と共同で行う中で、チーム医療を実践できる低浸襲がん診療技術を習得したがんプロフェッショナルを育成しています。



連絡先 川中 崇 kawanaka@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7173 fax.088-633-7174
http://www.tokushima-hosp.jp/info/circulatory.html?rank_code=unit&belong_code=26

病理部

(部長 坂東 良美)

病理部は、病理組織診断・細胞診断を行うことにより、院内で実施される医療行為にevidenceを与える仕事を担っています。全国的に病理専門医数は絶対的に不足しています(徳島県では15名)。医療界全体が病理医の育成、獲得に必死になる時代が到来しています。研修にあたっては、各人の事情(婚姻、子供の有無、勤務時間等)を考慮し、弾力的に対応します。若き人材の参入を心からお待ちしています。



連絡先 坂東 良美 yoshimi@tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7454 fax.088-633-9565
http://www.tokushima-hosp.jp/info/circulatory_center.html?rank_code=dept&belong_code=12

皮膚科

(科長 久保 宜明)

皮膚科は現在、10人で毎日平均70人の外来患者、14人の入院患者を診ながら、教育、研究を行っています。過去10年間の新入医員は年平均2人です。後期研修の目標は、①実学としての皮膚科学の習熟、②皮膚科専門医取得、③研究です。全て卒業後が勝負で、体力、気力、好奇心をもち、皮疹を通して病態を考え加療して下さい。また研究にも興味を示してほしいと思います。いずれにせよ、皮膚科を選んだことを後悔することはありません。



連絡先 久保 宜明 kubo@tokushima-u.ac.jp
石上 剛史(総務医長) ishigami@clin.med.tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7154 fax.088-632-0434
http://www.tokushima-hosp.jp/info/circulatory.html?rank_code=unit&belong_code=17

麻酔科

(科長 田中 克哉)

初期研修プログラムではどの科に進んでも必要な呼吸循環管理ができることを目標としています。麻酔科では、適切な麻酔をかけるだけでなく、手術や麻酔薬の影響で刻々と変化する全身状態の変化をいち早く検知し、改善のための処置や投薬を行っています。全身管理の重要性、面白さを体験できます。後期研修プログラムでは関連病院も含めてローテーションすることであらゆる症例や状態に対応できる麻酔科医を養成しています。



連絡先 田中 克哉 katsuya.tanaka@tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7181 fax.088-633-7182
http://www.med.tokushima-u.ac.jp/article/0015541.html

産科婦人科

(科長 苛原 稔)

現在医局員は、苛原稔教授をはじめとして22名。診療面では生殖、腫瘍、周産期、女性医学の4診療部門があり、どの部門も全国でトップレベルの成績です。分娩数は年間688件、手術件数は598件(平成24年度)。研究面では5つの研究班に分かれて、基礎的および臨床的研究を行っています。教育面ではカリキュラムを組み、学生、初期研修医の指導を行っています。産科婦人科に興味のある人は是非ご連絡下さい。



連絡先 苛原 稔 irahara@tokushima-u.ac.jp
西村 正人 nishimura.mastato@tokushima-u.ac.jp
tel.088-633-7177 fax.088-631-2630
http://www.tokudai-sanfujinka.jp/Total/index.html



研修するならぜひ徳島大学病院へ!